

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成27年 5月26日

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4674000130
法人名	医療法人杏政会
事業所名	グループホーム つる
所在地	鹿児島県薩摩郡さつま町鶴田2693 電話0996-59-2000
自己評価作成日	平成27年4月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/46/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/46/index.php</a>
-------------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成27年4月24日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人が医療法人であり、日常的に健康観察を行い体調管理ができています。また、体調不良時は、早急な対応がとれるという利点があります。医療機関の協力、家族の協力を得ながら、昨年、看取りを行っています。ホームで現在力を入れているのは、日常の生活を送っていただき出来ることは一緒にやってみようという生活の中のリハビリを頑張っています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

○ホームは母体医療機関が隣接しており、医療機関との細やかな連携のもとで利用者の病状に応じた定期的な受診を支援し、緊急時も24時間体制のため家族の安心に結びついている。理念に沿って利用者が明るく安心して、家庭と同じように過ごせるように職員が連携して支援に努めている。また、地域に対しては、認知症の理解促進のために公民館講座や中学校等で研修の講師も務めている。

○管理者や職員は、利用者並びにご家族の要望や思いの把握に努めて、何よりも利用者の思いに寄り添った支援に努力を重ねている。管理者と職員の連携も十分に図られ、業務改善やサービスの質向上に反映させている。特に利用者のケアに関しては迅速に話し合い、解決に結び付け、必要に応じて利用者・家族に対しても解決策を十分に説明して安心につなげている。

○職員の防災に対する意識も高い。定期的に消防署や駐在所・地域住民の参加を得て、母体病院と合同で夜間を含む火災や地震を想定した避難訓練を行っているが、その他にも職員で話し合っ、利用者とともに自主的な避難訓練も年に数回実施している。マニュアル整備や研修の充実も図り理解も深めている。

○管理者や職員は、利用者の食事の楽しみの充実にも関心を寄せている。時には利用者の好みを献立に反映し、おやつ作りや調理など利用者と一緒にできる事を支援したり、季節の行事食や誕生会等の特別食の工夫など、利用者がゆったりと楽しめるような雰囲気づくりにも積極的に取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	入所者も含めて食事前に全員で唱和としており、明るく楽しく笑いの絶えないホームとなっている。	ホーム独自の理念に加えて方針を掲げて、利用者が家庭的な雰囲気の中で明るく楽しく過ごせるように日々のケアに取り組んでいる。昼食及び夕食前に利用者と職員で唱和して理解を深め、常に利用者の気持ちに寄り添ったケアの実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流は、難しく今後の課題ですが、近所の方が、差し入れを持ってきてくださったり行事を通じた交流は行っております。	地域公民館サロンに職員と元気な利用者が参加するほか、散歩や買い物などの際には地域の人々と挨拶や会話を交わしている。ホーム主催の敬老会にも地域の方に参加して頂き、中高生の職場体験学習の受入、ハーモニカや踊りのボランティアの来訪もあり、利用者はこれらの交流を楽しみにしている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	職員が認知症サポーターの一員になっており、公民館講座や中学校等で講師を行ったりしており地域の方々に認知症の理解を深めていただけるよう取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの近況報告・利用者状況等を通してホームの実情を知っていただいております。助言をいただいております。	会議は家族や行政の職員・民生委員などの参加があり、定期的開催されている。事業所の現況や行事・外部評価結果等の報告や問題点等に関する意見交換が行われ、それによる提案や意見が具体的にサービス向上に反映されている。年1回は会議に合わせて避難訓練も行われ、地域住民や消防署・駐在さんの参加も得られている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議等でホームの現状を知っていただいたり、助言をいただいたりした。	行政の職員には運営推進会議でホームの現況をご理解頂き、電話や訪問により利用者の現況等の相談について助言・対応して頂くなど、より良い協力関係の構築に努め、サービスの質の向上に取り組んでいる。管理者が認知症サポーターも務め、包括支援センターとも意見や情報の交換を頻繁に行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人に身体拘束委員会があり年2回の研修を受けているまた、毎月チェック表で振り返りを行っている。	法人主催の「身体拘束廃止委員会」での話し合いや研修と共に、ホームでは毎月チェック表により業務中の言葉遣いや対応等を確認して理解を深める取り組みを行っている。新規の入居者情報は駐在所にも連絡して、見守りや声掛けなどの協力をお願いしている。居室や玄関の施錠は行っておらず、職員は連携して見守りによる安全確保に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会の中で高齢者虐待について学ぶ機会があり、日常的に意識している。また日々の業務の中で言葉づかいや態度等ミーティングで振り返っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	当ホームにも後見制度を利用されている方もおられるため職員は認識しており、家族の方にも助言等行う機会もある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の際には十分な説明を行っております、また、改定の際には、文書による同意を得ております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族の方とは面会時または行事等の時に要望をお聞きしているまたホーム内で解決できない事は事務長・開設者へ報告を行っている。利用者や家族からの要望、苦情等には、意見箱の設置もある。	利用者の思いや意見は日々の暮らしを通じて、ご家族とは面会や家族会の際に、気軽に話せる雰囲気づくりに努めて要望や意見を収集している。それらは「個人録」や「面会簿」で共有し、上司への報告と共に、速やかにケアに反映するように努め、改善の経過や結果は本人や家族に報告している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日々の話し合い、ミーティングの中で話し合いを持っている、業務の改善等は早急に対応しているが予算のかかることは、難しい。	職員の意見や提案は、日々の話し合いや毎月のミーティング、2ヶ月に1回の食事会で聞き取り、業務改善やサービスの質向上に反映させている。特に利用者のケアに関しては、日常的な会話で迅速に話し合い、「とりあえずやってみる」という職場の風土に沿って実施している。管理者と職員の連携もスムーズであり、利用者とも協働して家族的な雰囲気作りに努めている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	業務改善・勤務時間や健康状態等に合わせた柔軟な対応、何にでも、とりあえずやってみよう精神があるのですぐ始められる職場。給料が上がればもっと嬉しいが。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>母体医療機関に委員会があり委員会ごとに年2回以上の研修会が組まれており全員が参加する仕組みがある。また、ミーティング時にミニ勉強会を担当を決めて実施している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他ホームの防災訓練を見学させていただいたり、ホーム見学に出かけたり、他ホームの管理者との交流を行ったりしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規利用者の場合は、事前情報・事前面談などでご本人家族の状況把握に努めている。入所後は慣れていただく事を一番に考えよくお話をお聞きしている。家族へは、まめに状況を電話で報告をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所当初は、必ずご本人の状況を電話で報告している。面会時等職員とご本人様を交えてお茶を飲みながら話をする機会を設けており気軽に話せる機会をつくっている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者本人の大変とご家族の大変との違いを含めた援助を行ってゆくようにしている。まずは信頼関係をつくることを心掛けた援助を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「働かざる者食うべからず」がホームの家訓であり、状態を見ながら出来ることはやっただいている。職員・利用者を含めて遠慮なくお互い様の関係である。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人にとって、家族はかけがいのないの存在であることを職員は自覚しており、行事時・受診時・不穏時・終末期等家族の力をお借りしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は、家族・親戚や限られた人への支援しか継続できていない。（葬儀出席援助・墓参り・知人への面会援助）日常的な交流は難しい。	昔馴染みの知人の来訪のほか、病院でのリハビリ時の交流も多く、ゆったりと過ごせるように支援している。本人が希望する馴染みの美容院や商店・法事や墓参り・地域のサロンなどへの同行、電話や手紙のやり取りの支援等も可能な限り行っている。また、ご家族にも外出や外泊のお願いをして関係の継続を図っている。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	できることをできる人が手伝ってあげられるような関わりを行っている。職員が間に入り仲を取り持つこともある。手伝ってもらったら「ありがとう」を忘れないようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族の方が年忌後に訪ねてくださって、思い出話をして帰られたりすることもある。また、亡くなられた家族の方が病院受診に来られた際に近況を報告してくださっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	自宅へ帰りたいとの思いは叶えてあげることが出来ないが、家族へ外出・外泊依頼を行ったりしている。現在は、食べ物の希望が多い。	日々の暮らしを通じて思いや希望の把握に努め、「やってみようボード」にメモ書きして、希望に添えるよう職員全員で話し合っている。ご家族にも外出や外泊をお願いするなど、本人の趣味や希望も含めて気持ちに寄り添った支援が継続できるよう努力を重ねている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の本人家族への聞き取りや情報提供所により把握しており、また日常の会話の中での把握を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントを行い状態の把握を行っているまた、日常の記録・職員のかかわりの中での気づきを話し合っている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の希望・本人にどうしたいかをお聞きしている。また職員と話し合いを持っている。健康を中心に生きがいを持ってもらえるように考えている。	介護計画は、本人・家族をはじめかかりつけ医や職員等の関係者と話し合い、本人がゆったりと楽しく過ごせるように利用者本位のものを作成している。また3ヶ月毎のカンファレンス時に職員全員でモニタリングを行うと共に、状態の変化時にも迅速に話し合い必要な計画修正を実施している。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の話し合いの中で情報交換し、こうしてみようという意見等はよく出ており、取り組みも早い。モニタリング等もみんなで取り組んでいる。記録は、改善してゆこうという話は出ている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	昨年は終末期の方が3名おられ勤務時間・業務内容等変更することが多かったが、みんなが協力的で家族からの感謝にもつながった。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の方が残された自宅の管理をおこなってくださったり、シルバー人材の方へ草刈りをお願いしたり、公民会長さんへ用事の依頼をお願いしたりしてお世話になっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人が医療機関なので緊急時の対応は素早くできる、また、精神科・皮膚科・眼科等他科受診も希望・状態に応じて出来ている。	母体医療機関が隣接しており利用前の受診経過は十分に把握されている。医師との十分な情報交換に基づいて、利用者の病状に応じた定期的な受診を、専門医の受診も含めて支援している。緊急時の受診も24時間体制で連携も十分な状況であり、ご家族の安心に結びついている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人が医療機関なので入所前より関係が築けておられる方もおられ安心度は高いと思われる。病気は勿論、人生も見てくださっているのを助かっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、ホーム職員が同行し状態報告を行ったり、医師の説明を一緒にお聞きし、退院時期・状態等の把握ができています。また、面会に伺ったり、電話にて病状をお聞きしている。病院SWと家族と退院の連絡調整も行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホーム入所者全員に終末期に向けた希望はお聞きしてある。また、ご家族にも、家族会等を通じて終末期の方針の説明してあり、昨年は、家族とともに看取りをおこなっている。	重度化や終末期のケアについては、事業所方針を確立して「重度化した場合における対応に係る指針」で職員やご家族とも共有している。状況の変化の際にも母体医療機関と連携して、現在事業所に対応できることを本人・ご家族に繰り返し説明を行い周知を図り、看取りを含む可能な支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署主催の救急救命訓練を受講したり、ホーム独自のマニュアルがある。昨年は、救急搬送が多かったが、慌てずできた。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>防災訓練等を全員で行っている。3月の訓練時、地震・原発事故等のマニュアルを改めて読み直しを行った、火災訓練の練習時、利用者も訓練を重ねると早くなっておられたため日ごろの訓練の必要性を感じた。</p>	<p>年2回のうち1回は消防署や駐在所・地域住民の参加を得て、母体病院と合同で夜間を含む火災や地震を想定した避難訓練を行っている。また、職員で話し合っって自主的な避難訓練も年に数回実施している。マニュアル整備や研修の充実を図り、スプリンクラーや自動通報装置の設置及び災害時の備蓄も十分な状況である。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間では、ミーティング等を通して言葉遣いや態度等振り返る機会を持っている。距離が近すぎて上からの声掛けになっていることがある。(～しなさい)	利用者の尊厳と権利を守るため、日常のケアに際して本人の誇りやプライバシー確保に十分配慮した声掛けや言葉使いを心掛けている。関連のマニュアルの整備や研修の充実と共に、毎月のミーティングでは繰り返し順守状況を確認して利用者の人格や感性を大切にしたいケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人がどうしたいかを自分の声で話していただくようにしている。ゆっくり待つ。じっくり聞くがお互い難しい時がある。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは、あるが柔軟に対応できていると思う。ペースに合わせたほうが、ご本人も自分たちも楽だと職員全員が理解できている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	真っ赤が好きの人、地味な色が好きな人個性があるからこそ楽しい、間違ったら笑いながら直せばもっと楽しい。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べるのが基本一番楽しみな方が多い。何が食べたいの会話は弾む。できることを手伝ってもらい、笑いながらの食事が美味しい。	土・日は利用者の好みを献立に反映し、日常的には野菜の下ごしらえや調理・盛り付けなど利用者と一緒にできる事を支援している。利用者の状況に応じてミキサー食やきざみ食・とろみ食の提供、季節の行事食や誕生会等の特別食の工夫、ふくれ菓子やケーキ・団子作りの支援など、利用者がゆったりと楽しめるような雰囲気づくりにも積極的に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿病の方が頑張って血糖が安定し普通食へ、お粥・刻み・とろみ等柔軟に対応、野菜嫌いな方がバランスよく食べられるように出す順番を工夫し食べられたらほめまくっています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・毎食後口腔ケアは確実に行っていきます。夜間は入れ歯洗浄剤で消毒しています。声掛け・仕上げ磨き等個別に対応		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	全員の方が、紙パンツと尿とりで過ごしておられます。排泄パターンにより誘導・介助を行っています。夜間帯も交換は2名であれば、誘導介助で対応しております。	利用者の様子観察や排泄チェック表の活用で個々のパターンを把握し、ポータブルトイレの使用も含めて適宜の声かけや誘導を行っている。利用者の羞恥心や不安への配慮も十分なされ、一連の工夫は個々の介護プランに反映している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分・食事・運動と内服でほぼ定期排便ですが、一人の方は、便秘がひどく家族と相談させていただき現在ハーブで三日に1回で調整しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴は、温泉であり楽しみにされておられる方が多いです。失禁時など柔軟に対応しています。冬場は、入浴の誘いをして回数的に少なくなっています。本人の希望に合わせています。	入浴に関する個々の希望は十分把握され、一人ひとりの生活習慣やその時々のお思いや体調に沿って支援している。温泉でもあり、ゆず風呂やしょうぶ風呂など季節に合わせた対応のほか、入浴を拒まれる方には声掛けや時間帯の変更などで入浴が楽しみになるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	最近では、食事後昼寝をされることが多くなってきておられます。寝かせきりにならないように声掛けを行いながら見守っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	精神科の内服薬を飲んでおられ血圧低下があり薬の調整をいただいたり、健康状態と合わせて管理できています。薬剤師さんに相談もできる関係です。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホームに役割ができ一日が楽しく短く感じていただけるように行事・レクリエーション・仕事等行っています。個別に散歩・買い物・趣味の援助がもう少しできたらと考えています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	一番の課題。全体での花見等の実施は行っているが個別支援はできていない、家族への外出依頼は出来ている家族もある。	日頃は近隣の散歩や日光浴のほか、スーパーでの買い物や美容室など、利用者の希望に沿って外出を支援している。また、地域の公民館のサロンへの参加や法事・墓参り、季節の花見、県下一周駅伝の応援、家族との外出や外泊など、本人がその人らしい暮らしを保てるように可能な限りの支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>近くのスーパーへ買い物に出かけておやつを買ってきている。外食等の計画もある。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>家族と絵手紙の交換を行っておられる方がおられる。また、本人希望時に家族と電話の援助行っている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>建物の構造上難しい面もあるが空調調整や換気等注意している。季節の花や飾り付け等も工夫している。また、職員の声掛けが不快な環境にならないように注意している。</p>	<p>利用者と職員の共同作成による季節感ある絵や貼り絵、合わせて行事の写真などがリビングの壁に飾られると共に、室温や湿度にも配慮がなされ、落ち着いて静かにゆったりと過ごせるように工夫されている。職員は、利用者一人ひとりの感覚や身体状況・生活ペースを大切にしながら、声かけや安全に配慮して頻繁に見守りながら、居心地のよい場を整えるように努めている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビングや空き部屋を工夫して日向ぼっこができたり話ができたりできるようにしている。また、事務室やリビング横に一人でのんびりしたり相談できる部屋を作っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>写真を飾られたり、自分の好きなものを持ってこられたりしておられる。</p>	<p>居室は畳の部屋であり、ベッドやエアコンが設置されている。利用者や家族の希望に沿って馴染みの小物や写真などが飾られ、本人が自分の部屋として落ち着いて、その人らしく居心地よく過ごせるように工夫されている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>徘徊・多動危険が伴う行動があるときは、部屋の中を柔軟にかたづけたりしている。後、本人が目で見分けるように、配置したり工夫している。</p>	/	/



## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない